

”自然は 沈黙した

うす気味悪い

鳥たちは どこへ行ってしまったのか

みんな不思議に思い 不吉な予言におびえた

裏庭の餌箱は からっぽだった

ああ鳥がいた と思っても 死にかけていた

ぶるぶるからだをふるわせ 飛ぶこともできなかった

春がきたが 沈黙の春だった

いつもだったら コマドリ ネコマドリ

ハト カケス ミソサザイの鳴き声で春の夜は明ける

そのほかいろんな鳥の鳴き声がひびきわたる

だが いまはもの音ひとつしない

野原 森 沼地みな黙りこくっている

『沈黙の春』レイチェル・カーソン著 青木菜一訳 新潮社刊より

レイチェル・カーソン

～わたしたちが引き継ぐもの～

人と業績

10月20日(月)～11月9日(日)

信州大学松本キャンパス
松本合同図書館 第1閲覧室(2F)

『Silent Spring』
by Rachel L. Carson



『沈黙の春』
レイチェル・カーソン著
青木菜一訳

米国の生物学者レイチェル・カーソンが、化学薬品による環境汚染にいち早く警鐘を鳴らした書『沈黙の春』を世に出してから今年で46年。

科学者としての目と、作家としての豊かな感性とで生涯に渡って自然を見つめ続けた彼女の感性は、現在も自然教育や環境教育にとどまらず、幼児教育をはじめさまざまな分野で注目されています。

今回の企画展では、ぜひ多くの方々にご来館いただき、レイチェルが次代に遺したメッセージ“かけがえのないもの”について考える契機にいただければ幸いです。みなさまのお越しを、こころよりお待ちしております。



レイチェル・カーソン (1907-1964)
(写真提供: レイチェルカーソン日本協会)

▶ お問い合わせ 信州大学松本合同図書館

TEL : 0263-37-2177 FAX : 0263-33-5833 e-mail: matsulib@shinshu-u.ac.jp



信州大学は、「環境マインドを持つ人材の育成」を環境方針として掲げています。この一環として、松本合同図書館では平成 19 年度より、環境教育への支援活動として閲覧室に環境関連図書コーナーを設け、継続的に資料の充実を図っています。平成 20 年度は、その記念すべき第 1 回テーマ展にふさわしい人物として、レイチェル・カーソンをとりあげました。

レイチェル・カーソンは、科学者としての信念から農薬の大量散布による「すべての生命の危機」を『沈黙の春』で告発し、その後の環境保護運動に大きな役割を果たしました。また『センス・オブ・ワンダー』では、自然の神秘さや不思議さなどを発見し感動をわかち合う様子を、やさしい言葉と美しい文章で綴っています。

レイチェルは、自然の中に身を置くことで「生きる」ことによる喜びや感激に気づくことの大切さや、私たちもまた地球の一部なのだということを教えてくれています。

今回の展示では、その著作や写真パネルから、レイチェル・カーソンが遺した使命と私たちが引き継いでいくものを考えてみたいと思います。

■ 著作

Books

- Under the Sea-Wind (1941)
..... 邦訳『潮風の下で』
- The Sea Around Us (1951)
..... 邦訳『われらをめぐる海』
- The Edge of the Sea (1955)
..... 邦訳『海辺』
- Silent Spring (1962)
..... 邦訳『生と死の妙薬』『沈黙の春』
- The Sense of Wonder (1965)
..... 邦訳『センス・オブ・ワンダー』
- Always, Rachel : the Letters of Rachel Carson and Dorothy Freeman, 1952-1964 (1995)
..... 邦訳 なし
- Lost Woods (1998)
..... 邦訳『失われた森：レイチェル・カーソン遺稿集』

■ 年譜

Chronological History

- 1907 米国ペンシルベニア州アルゲニー郡スプリングデールで生まれる (5月27日)。
- 1918 「St. Nicholas Magazine」誌に「雲の中の戦い」掲載。
- 1925 ペンシルバニア女子大学 (英文学専攻) に入学。
- 1928 専攻を生物学へ変更。
- 1929 ペンシルバニア女子大学卒業。ウッズホール海洋生物研究所で研修。ジョンズ・ホプキンス大学修士課程入学。
- 1932 ジョンズ・ホプキンス大学修士号 (海洋生物学) を授与。メリーランド大学などで講師をしながら研究継続。
- 1934 ジョンズ・ホプキンス大学大学院を退学、正規の教職ポストを求めて就職活動。
- 1935 放送番組の台本執筆アルバイト。父ロバート死去。
- 1936 公務員試験に合格。漁業局に正式採用。
- 1937 「Atlantic Monthly」誌に「海の中」掲載。
- 1940 勤務先、内務省管轄の魚類・野生生物局へ編成替え。
- 1941 『潮風の下で』出版。
- 1945 勤務先の身分、水生生物学者となる。
- 1946 国立野生生物保護区を紹介するシリーズ「自然保護の現状」の編集執筆担当。
- 1951 『われらをめぐる海』出版。ベストセラーに。
- 1952 魚類・野生生物局を退職。執筆活動に専念。
- 1955 『海辺』出版。
- 1956 「Womens Home Companion」誌に「子供たちに不思議さへの目を開かせよう」掲載 (後に『センス・オブ・ワンダー』として出版)。
- 1958 『沈黙の春』執筆へ。母マリア死去。
- 1960 ガンが発見され、放射線治療へ。
- 1962 『沈黙の春』を「New Yorker」誌に掲載。単行書出版。
- 1963 シュバイツァー・メダル受賞。ケネディ大統領科学諮問委員会農薬委員会報告書提出される。
- 1964 56歳で逝去 (4月14日)。
- 1965 『センス・オブ・ワンダー』出版。